2026年11月12日公開

2027年度　教養デザイン研究科　新規授業科目の概要（博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目	「文化」領域研究科目	文化理論研究演習Ⅰ （英語圏文化・文学）	小林 広直 先生	イギリスおよびアイルランド文化（特に文学）に関連する文献の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な基礎的知識を深めることを目的とする。2026年度は特に、近代以降のイギリスとアイルランド双方の歴史をナショナリズムの観点から扱った文献を精読する予定である。なお、受講者には、各自の研究テーマに関する発表を学期内で2、3回行ってもらう。資料収集の方法や研究論文の読み方を学び、それぞれの受講生が自身の興味・関心を修士論文で深めてゆけるような技術や視座を獲得することが本演習の目標となる。
		文化理論研究演習Ⅱ （英語圏文化・文学）	小林 広直 先生	今学期では、前学期で得たイギリスとアイルランドの文化に関する基礎的な知識を前提としつつ、「ポストコロニアル理論」に関する重要論文（エドワード・サイード、ガヤトリ・スピヴァク、ホミ・バーバなど）を英語原文と日本語訳の双方で精読し、いわゆる20世紀以降の現代思想の流れを理解することを目標とする。これによって論文において知識を抽象的に整理し、つなげてゆくのに役立つ理論的枠組みを身に付けてもらえたらと考えている。また、春学期の演習から継続して、受講者には、各自の研究テーマに関する発表を学期中に2、3回行ってもらう。
		文化理論研究演習Ⅲ （英語圏文化・文学）	小林 広直 先生	1年時の演習から継続して、イギリスおよびアイルランドの文化に関する文献を精読する予定であるが、今年度扱う文献は、各受講者の修士論文における研究テーマに応じて、柔軟に選定してゆく。このことと並行して、受講者は修士論文の執筆に向けた具体的な作業を開始する。先行研究を網羅的に収集・精読・検討し、自身の論にどのように組み込んでゆくかをともに模索する。学期中は一月に一度必ず口頭発表（経過報告）を行い、教員や他の受講生との議論を通じて、修士論文の執筆を進めてゆく。
		文化理論研究演習Ⅳ （英語圏文化・文学）	小林 広直 先生	受講生は各自、修士論文の執筆を進める（可能であれば、夏休みから）。演習の各回では論文の草稿を教員や他の受講生と共に議論・検討し、己の研究の問題点や改善点に気づき、論文の完成度を高めてゆくことが目標である。言うなれば、教員だけでなく他の受講生との〈協働〉を通じて、互いに励まし合うような関係になることを願っている（論文の執筆は基本的に孤独な作業なので）。また、教員は演習では論文の論理構成・内容の確認だけでなく、訳語等のチェックも行う（必要に応じてZoomも活用する）。

2026年11月19日公開

2027年度　教養デザイン研究科　新規授業科目の概要（博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目	「文化」領域研究科目	文化理論研究演習Ⅰ （中国古典文学講読）	笠見 弥生 先生	中国古典文学に関する基礎的な知識と技能の習得のため、関連文献を講読する。受講生の興味関心によって講読文献を選定するが、受講生の興味関心が定まっていない場合には白話小説及びその周辺の文献を読み進めていく。中国の古典を読むための辞書や関連文献の調査方法を知ること、講読する文献を中心に中国文学史の流れを理解することを目標とする。
		文化理論研究演習Ⅱ （中国古典文学講読）	笠見 弥生 先生	演習Ⅰに引き続き、中国古典文学に関する基礎的な知識と技能の習得のため、関連文献を講読する。受講生の興味関心によって講読文献を選定するが、受講生の興味関心が定まっていない場合には白話小説及びその周辺の文献を読み進めていく。中国の古典を読むための辞書や関連文献の調査方法に習熟すること、講読する文献を中心に中国文学史の流れについて理解を深めることを目標とする。また、修士論文執筆に向けて、各自の研究テーマを定めて発表してもらう。
		文化理論研究演習Ⅲ （中国古典文学講読）	笠見 弥生 先生	演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、中国古典文学関連文献を講読する。講読する文献は、受講者の研究テーマによって選定する。文献の講読を通じて各自の研究テーマについて理解を深めることを目標とする。同時に、修士論文の構想や進捗について随時発表を行ってもらい、議論を通じて修士論文の完成度を高める。
		文化理論研究演習Ⅳ （中国古典文学講読）	笠見 弥生 先生	演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続き、中国古典文学関連文献を講読する。講読する文献は、受講者の研究テーマによって選定する。文献の講読を通じて各自の研究テーマについて理解を深めることを目標とする。同時に、修士論文の進捗について随時発表を行ってもらい、議論を通じて論文の完成度を高める。

2026年11月19日追加公開

2027年度　教養デザイン研究科　新規授業科目の概要（博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目	「文化」領域研究科目	地域文化研究演習Ⅰ （現代ラテンアメリカ文学）	内田 兆史 先生	ラテンアメリカ文学を学ぶにあたり、まずはその背景としてラテンアメリカの歴史について概観し、その後、文学史を文化史と政治史との関係において考察する。2027年度においてはとくにアルゼンチンの歴史、文化史、政治史、とりわけ76年に始まる軍事独裁政権がどのような影響を作家や作品に及ぼしたのかを資料（主にスペイン語）の精読を通じて通観する予定である。また、アルゼンチン文学作品の原典を読み、それがその他のラテンアメリカ文学とどのような違いがあるのかを掴んでいくことを目標とする。
		地域文化研究演習Ⅱ （現代ラテンアメリカ文学）	内田 兆史 先生	修士論文を執筆するために必要な文献の扱い方、作品の原典の読み方、作家・作品研究文献の読解といった技能を、文献（主にスペイン語）を精読しながら身につけていく。アルゼンチンの代表的な作家たちの原典精読を注解版などを利用し、表層的な解釈に留まらない読みを発掘する悦びを手にしてほしい。また同時に、定期的に各自の研究テーマに関する発表を行い、論文に向かう道のりの現在地を知る手立てとしてもらう予定である。
		地域文化研究演習Ⅲ （現代ラテンアメリカ文学）	内田 兆史 先生	1年次（演習Ⅰ・演習Ⅱ）から継続して、受講生のテーマや興味に応じて選定したラテンアメリカの文学作品を原書で精読する。同時に受講生には修士論文の執筆に向けた具体的な作業を進めてもらう。先行研究の検討、必要な一次文献、二次文献の読解がその中心になるだろう。授業内に複数回の発表を行い、他の受講生や教員との議論を通じて説得力のある論の進め方を見出していってほしい。
		地域文化研究演習Ⅳ （現代ラテンアメリカ文学）	内田 兆史 先生	レジュメ制作、とりわけ利用する引用文の提示を含めた複数回の口頭での発表を通じて、修士論文の構想を詰め、目次を確定させながら執筆を進めていってもらう。Ⅲと同じく、授業内に複数回の発表を行い、他の受講生や教員との議論によって、研究を修正・深化させると同時に説得力のある論旨を固めていく。また草稿を教員らとの繰り返しやり取りしながら修士論文の構成や内容、そして文章を吟味していこう。